

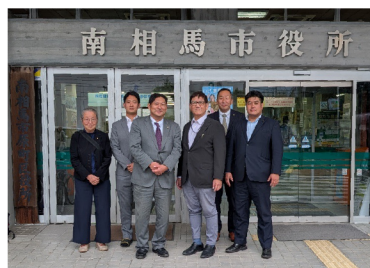
いしざき 遊太

編集・発行 石崎 遊太 / 令和7年11月発行 / 南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115



行政視察のご報告

都市民生常任委員会の行政視察として、10月に福島県南相馬市と伊達市を訪問しました。議員それぞれの詳細な報告書は追って市議会HPに公開されますが、先んじて、私自身の所感を簡潔にまとめさせていただきます。視察を快くお受けくださった両市の皆様に、心より御礼申し上げます。



福島県 南相馬市《こども・子育て応援施策》

結婚・妊娠・出産から子育て、義務教育、進学まで、あらゆるステージで切れ目のない支援体制が構築されていました。未曾有の大震災を乗り越え、“希望出生率1.8の実現”という明確な数値目標を掲げてまちづくりに取り組む姿勢に、深い感銘を受けました。

福島県 伊達市《健幸都市づくり》

進行する少子高齢化への対応として、子育て支援に加え、“社会を支える元気な高齢者を増やす”施策を強化している点が印象的でした。こうした方向性、そして歩くことに特化した健康づくりの取り組みの数々は、三浦市においても大いに参考になると感じました。



PROFILE -プロフィール-

いしざき 遊太

HP、各種SNSなどは
こちらからどうぞ！！
過去のみうラボReportも
HPにアップしています。



1991年4月生まれの34歳。幼馴染の妻とともに、娘（2歳）と息子（1歳）の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票をいただき2位で当選。2025年7月に副議長就任。



材料

※3〜4人前分

鰯	2尾
グレープフルーツ	1玉
塩	小匙1/2
砂糖	小匙1/2
オリーブオイル	大匙1
ワインビネガー(酢)	大匙1
ベビーリーフ	適量
ラディッシュ	適量
ディル(フェンネル)	適量

作り方

1. 鰯はおろして骨を取り、適当な大きさに切って塩(分量外)を軽く振り15分ほど置く。
2. グレープフルーツは皮をむき、房に包丁を入れながら果肉を切り出しておく。
3. 残った房を絞って果汁を大匙1ほど取り出す。
4. 果汁・塩・砂糖・酢を混ぜたマリネ液に、水気を拭いた鰯を和えて10分ほどなじませる。
5. 4と果肉を交互に並べ、ディルを散らす。
6. ベビーリーフやラディッシュを添える。



お手伝いに夢中な娘

旬のみかんを使ったレシピを模索していましたが、納得のいくものができず…季節感はありませんが、我が家ではおなじみの一皿をご紹介します。グレープフルーツは、ピンクでもイエローでもお好みで。果物をスイーツではない料理に使うと、食卓が一気に華やきます。ディルやフェンネルは市内のスーパーでなかなか見かけないのですが、ハーブが入らないと味が締まらない気がするので、手に入らない場合は近いドライハーブで代用いただければと思います。キリッと冷やした白ワインやオレンジワインとよく合います。

みうらみらいラボ 会員募集中

みうらみらいラボは、代表・いしざき遊太との対話を通じて、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ことを目的とした政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、右の二次元コードよりご確認ください。お電話にて入会のご意思をお伝えいただく際は、以下の情報をお知らせください。
①お名前 ②ご住所 ③お電話番号 ④(あれば)メールアドレス
上記をお伝えいただければ、入会手続きは完了です。
なお、市内在住の会員の皆様には、『みうラボReport』を毎月お届けいたします。



質問の全体像

私が行った令和7年第3回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1.カムチャツカ半島沖地震への対応

- (1) 市の対応と当時の状況把握
- (2) 市の体制について
- (3) 課題と今後の取組

2.子育て支援の取組と今後

- (1) 妊娠～出産前の支援
- (2) 新生児～幼児期の支援
- (3) 令和7年度新規の取組

1の津波対応については、当時から強い問題意識を持っており、議会としても市に対して緊急申し入れを行った経緯があります。当時の状況を時系列で整理し、主に市長の認識と対応の反省点を伺いただきました。

2の子育て支援については、より深く議論するために、出産から未就学児までに対象を絞りました。各種の施策の意図や思いを確認するとともに、子育て世代の当事者としての視点から、複数の政策提言を行いました。

発言の全文については、私が文字起こししたものをブログに見やすく掲載しております。下記の二次元コードからご覧ください。



コチラの二次元コードより
発言全文をご覧になれます



いしざき遊太 一般質問

カムチャツカ半島沖地震への対応

7月30日にカムチャツカ半島沖で発生した地震と、それに伴う津波警報・避難指示については、市民の皆様も記憶に新しいのではないのでしょうか。地震発生当時、私はすでに登庁しており、正副議長室でSNSを通じて避難情報を発信しながら、市民の方々から寄せられる現場の状況を集約しつつ、市の動きを注視していました。幸い大きな被害はありませんでしたが、市の対応については、多くの課題が残される形となりました。

① 初動時の全庁的な対応の欠如

当時、市民からの問い合わせ等で防災危機対策室の電話は長時間ふさがり、担当職員はその対応に追われました。また、主な自主避難先にも職員の配備がほとんど行われず、現場は一時混乱したと聞きます。今回の質疑の中で、窓口業務の縮小を含めた全庁的な業務配備の変更・補充の指示が出されていなかったことが明らかになりました。

私は、市長の裁量で災害対策本部を設置しなかったことが根本的な問題だと指摘しました。近隣の3市1町は災害対策本部がそれに準じた災害警戒本部を早々に設置していました。設置を見送った理由として、市長は「市民が過剰に不安を感じるおそれがあった」と答弁しましたが、これは被害がなかった事後だから言える後付けの論拠です。災害対策本部を設置していれば、より早いタイミングで的確な対応が取れたはずでした。

② 出口市長自身の情報発信の問題

市長は地震発生から約10分後に個人のSNSアカウントで避難を呼びかけましたが、市長の公式アカウントで同様の情報が発信されたのは、なんとそれから1時間以上後のことでした。質疑の中では、市長個人のSNSア

カウントに一部の市民がアクセスできない状態にあったことも判明しました。

投稿の内容から見れば、市長の公式アカウントよりも、自身の支持者がフォロワーの多くを占めるであろう個人アカウントでの避難呼びかけを優先したことは、明らかな問題です。市長は当初「誤ったという認識はない」との主張を繰り返しましたが、他の議員から精査が求められ、議論は一時中断。休憩後には一転して、撤回と謝罪が述べられました。

③ 避難所開設の遅れ

避難所の開設が16時まで遅れた理由として、市側は「避難の目的地が高台ではなく避難所となることを避けるため、設置を急がなかった」と説明しました。この点について私は一定の理解を示しましたが、開設がここまで遅れた理由にはなり得ません。避難所開設の可否を判断する対策会議が、14時30分まで開かれなかったこと自体がそもそもの問題です。①の指摘にも重なりますが、災害対策本部を設置していれば、避難所開設の是非はより早い段階で判断できたはずでした。

《時系列整理》

日	時刻	全体の動き	市の動き
7月30日	8:25	地震発生	
	9:40	津波警報の発令	災害情報センターの設置 避難指示の発表
	9:51		市長個人のSNSアカウントでの避難呼びかけ
	10:56		市長公式のSNSアカウントでの避難呼びかけ
	14:30		対策会議の開催（各部長の招集）
	16:00		避難所の開設
	18:30	津波注意報への切替	（順次避難所の閉鎖）

結果として、市長の判断力不足と指揮系統の不備が浮き彫りになったと感じます。災害対応において、政治未経験であることや就任からの期間の短さは、決して言い訳にはなりません。一連の対応について、市長には猛省を促すとともに、今回の経験を確実に次への教訓とすることを求めました。現場での混乱が最小限に抑えられたのは、消防団や区の役員、民生委員の方々をはじめとした、地域の皆様の迅速かつ的確な行動によるものです。日頃のご尽力も含めあらためて敬意を表すとともに、深く御礼を申し上げます。

子育て支援の取り組みと今後

三浦にUターンしてきてから早3年。市の子育て支援については特にこだわって提言を続けてきましたが、この短い期間だけでも、施策は着実に前進しています。課題であった産後ケア事業は、HP刷新や周知強化、自己負担の軽減などを行い、利用実績も伸びてきました。市独自の5歳児健診は県内でも珍しい取り組みで、発達を切れ目なく把握できる優れた仕組みです。今年度は一時預かり事業所「あすカルみうら」が開所し、病児・病後児保育利用への助成も始まりました。

一方で、すべてが順調なわけではありません。市内に産科がない状況で、妊産婦の移動支援はまだ不十分です。近くに頼れる人が少ない、若い移住者層の視点に立った政策立案が重要になってきます。流産・死産でお子さんを亡くされたご家族への支援も、もっと寄り添える余地があると思います。雨の日でも安心して遊べる遊び場へのニーズにも、引き続き向き合っていく必要があります。

財政は厳しい状況にありますが、三浦だからこそ実現できる子育ての豊かさがあると信じています。経済的な支援は可能な限り強化しつつ、小さな自治体ならではの『顔の見える』『細やかで行き届いた』支援を積み重ね、三浦ならではのより良い子育て環境をつくっていききたいと思います。

発言の中での主要要望

1. プレママパパ体験Dayの取組継続
2. 天使ママ・パパへのグリーンケア強化
3. Baby Loss Awareness Weekの啓発施策
4. 妊産婦タクシー助成の運用見直し
5. 陣痛タクシーの無償化（全額償還）
6. 『あすカルみうら』の認知度向上
7. 『あすカルみうら』での昼食提供



海南神社で七五三のお参り。
わが子を含め、三浦のこどもたちが
幸せに育ってくれることを願う
ばかりです。